



菅原 智美氏(すがはら・ともみ)70年新潟生まれ。リクルートなどを経て、07年、女性起業家の支援と貸会議室を運営する「N ATULUCK」設立。全国で約500人の女性経営者が登録する会員制の「女性経営者エメラルド倶楽部」の代表理事。

長引く不況で、先が見えないこの時代。人々は新しい働き方をどう見つけ、どう生きていけばいいのか。テレビや著書で「仕事」に

ついて発言する小山薫堂さんと、女性起業家の支援を続ける菅原智美さんが語り合った。(司会は共同通信編集委員・緒方伸一)

これで生きる。



小山 薫堂氏(こやま・くんだう)64年熊本県生まれ。放送作家として「料理の鉄人」「カノッサの屈辱」など。09年、米アカデミー賞外国語映画賞を受賞した「おくりびと」で脚本を担当。09年から山形市の東北芸術工科大教授。近著に「幸せの仕事術」。

先見えぬ時代 どう生きる

菅原 社員の不満は誰かと比べてどうか、というのが大半。給料を上げてみればかより低かったら不満だし、逆に安い給料でも皆同じだったら満足する。その原因として、夢や目標を持っていないことが挙げられる。端に少ない。

「仕事や働くことについて、日本の現状は？」
小山 比較によって仕事している人が多い。「自分の仕事はあの人より良い」とか「去年より売り上げが増えた」とか、判断基準が常に外にある。原因は、常に成長を求める社会にある。マイナスを評価する姿勢があれば社会は変わると思う。

生き残りへ「ぶれる」必要 小山

消費を決めるのは90%が女性だと言われているのに、女性が経営者として活躍していない。
子どもがいる女性が動きにくい状況も相変わらず。最近会った33歳の女性は、子どもを産む前は不動産の営業で数千万円も稼いでいたのに、復帰しようとして30社受けて全て落ちてしまったという。
「日常から一歩踏み出す方法はあるか。」
菅原 誰と付き合っただけで人生は変わる。新しい人と話すとき新しい情報も入ってくる。セミナーや勉強会に参加して多くの人と会えば、やりたいうことが見つかると思う。

女性が活躍できる社会に 菅原

小山 行き詰まっている人は自分のことが考えていない。打破する方法として、自分のことを差し置いて、他人のことが考えないで行動してみてもいい。



対談する小山薫堂氏(左)と菅原智美氏

菅原 新しいことにチャレンジするのが好きで、起業した。人から感謝され、私と会って「人生が変わった」と言われるとやる気が湧いてくる。愛する人から感謝され、喜ばれることがビジネスにできれば最高の。これからの働き方、進むべき方向は。
菅原 日本企業は海外進出していると言われるが、大手企業の工場があるだけで、中小企業はほとんど進出していない。
菅原 企業でも政治、社会でも、女性が3割を超えると、ぐんと活性化するというデータがある。日本の会社経営者の3割超が女性になるよう、サポートしていきたい。

消費を決めるのは90%が女性だと言われているのに、女性が経営者として活躍していない。
子どもがいる女性が動きにくい状況も相変わらず。最近会った33歳の女性は、子どもを産む前は不動産の営業で数千万円も稼いでいたのに、復帰しようとして30社受けて全て落ちてしまったという。
「日常から一歩踏み出す方法はあるか。」
菅原 誰と付き合っただけで人生は変わる。新しい人と話すとき新しい情報も入ってくる。セミナーや勉強会に参加して多くの人と会えば、やりたいうことが見つかると思う。

海外では日本人が経営しているだけでブランドになり得るので、中小企業のビジネスチャンスはいくらでもある。日本の優れた商品やサービスを持って行きたい。
小山 最近、シニア世代のことを僕は「グランド・ジュネレーション」と呼んでいる。このジュネーションがどれだけ上手に無駄遣いをするかが、日本をもっと元気にするポイントだ。この世代がお金を楽しく使えば、日本の文化も向上すると思う。
例えば、神奈川県の大磯で60歳を過ぎた女性が自宅でカフェをやっている。大通りから入った住宅街なので、家族は「誰も来ないよ」と止めたが、売り上げゼロの日がないくらい繁盛している。
ハードル不要
一就職難でスタートからつまづいてしまう。
菅原 待遇が良いとか正社員でなくては駄目とか、ハードルを設けているからではないか。働く人を求めている会社はたくさんあり、ハードルを設けなければ仕事は見つかるはず。何でもいから仕事をして、まず百パーセント本気で働いてみると、いろんなチャンスが生まれてくると思う。
小山 今の学生は、確実にいいゴールが見える所にしか挑戦しない傾向がある。どうなるか分らない物には手を出さない。現代の日本に生まれたことに感謝する気持ちになれば、どこでもいから働いていく気になれるのではないか。
小山 大磯のカフェのような店をつなぐチェーンをつくりたい。オーナーが違い、提供するものも違うが、思いだけは同じという思いのチェーン店をやりたいと考えている。